新男性 CP - 20. Bernard de Montreal による会議の書き下し文と翻訳。

****

私たちの文明の流れは、ますますエリートの悪用や操作に注目していますが、オカルトの世界が人間の心理に及ぼす潜在的な影響に関心を持つ人はほとんどいないでしょう。モントリオールのベルナールは、このような方向性をもとに探求と仕事を続けてきました。1,000を超えるフランス語のオーディオ録音と書籍があります。

Diffusion BdM Intlは、限られたリソースの中で、複数の言語で作品を発信することに専念しています。翻訳には人工知能を使用しており、いくつかの要素に不満が残るものの、翻訳の質は大きく向上しています。もし、あなたがこの仕事に貢献したいとお考えなら、これらの翻訳をあなたの言語に改訂するために、あなたの力をお貸しください。このアドレスにご連絡ください。[contact@diffusion-bdm-intl.com](mailto:contact@diffusion-bdm-intl.com)[diffusion-bdm-intl.com/](http://diffusion-bdm-intl.com/)

Diffusion BdM Intlのチーム全員からのご挨拶です。

**Pierre Riopel** **2023年**4月9日

**Bernard de Montreal**

*新男性 CP-20*

新しい人間が物事をありのままに見る新しい知性を持つためには、デカルト的思考から解放されなければなりません。普遍的な思考の無限の貯蔵庫に入り、そこから、人間、人間の精神、知性の精神、すべてのシステムにおいて進化を指示する知性の間に存在するはずの関係を、単純かつ正確に理解することが可能になります。

地球人は、その背景から、また感情との強い結びつきから、高次の知性の秘密を分かち合うことができなかったのです。 なぜなら、これらの秘密は、人間をある種の無知の状態に保たなければならない法則によって支配されていたからです。感情論から、思考の主観から自分を解放することができるようになり、感情論を排除し、人間の思考の心理的承認に従わない精神形態の中で働く振動の質を完全に保持できる日が来るまでは、です。

未来の人間は、人類の精神的組織の基本原理と、優れた地球外文明の発展を決定する基本原理を、いとも簡単に思いつき、いとも簡単に解釈することができるようになるのです。

未来の秘密の教義の柱の一つは、人間の心理的現実に関する非常に広大な概念に基づいている。そして、この概念は、人間がその知性をもって、これほど広大な組織、これほど広大な創造的組織の力の可能性を受け入れることを拒否する限り、限界はなく、もはや隠すことができないものを受け取ることに最も傾斜している心を和ませることができるだけであろう。

このように、知性の本質は、宇宙に存在する光の量に等しいと断言することが、今日この地球に住む私たちには可能なのです。つまり、宇宙のすべての光は、宇宙の各プレーンに集められ、異なる形で顕現しており、私たちが「宇宙の知性」と呼ぶものを構成しているのです。この知性の目的はただひとつ、すべての平面間、すべての惑星間、そしてそれらの惑星にあるすべての王国間の調和を維持することである。宇宙の知性は、調和という原則に強力に焦点を当てており、それは創造された宇宙を構成するすべてのものにおいて実現されるべきものである。

進化する存在である人間は、いつか知性の法則を理解しなければならない。それは、自分の惑星に創造された生命体と、多くの存在には知られているがほとんどの存在には知られていない運命に向かって進化しなければならない生命体を保存するためである。

人間の無意識と、この無意識から生じる人間の創造性は、したがって、宇宙のポジティブな知性の一部ではなく、ネガティブな知性の一部なのです。このことを理解することは重要です。なぜなら、進化した自我、敏感な存在、魂の振動を感知できる存在が、主観的な人間の思考が作り出すエネルギーから自分を切り離し、別のエネルギーと振動的に関連付けることができるからです。このエネルギーは、伝統、歴史、意見、影響によって条件付けられるのではなく、進化の最高圏から、進化の下位圏、しかし進化にとって非常に重要な圏を代表して人間に伝えられるのです。

人間のエゴがその知性の幻想に満足している限り、普遍的な知性から自分を隔てているベールを知覚することは不可能である。このベールの存在を思い浮かべることも、それによって普遍的な知性の完璧でバランスのとれた調和のとれた輝きに入り込むことも、彼には不可能なことなのです。

明日の人間、すなわち新しい人間像を築くための基礎となる人間は、知性それ自体が人間であるのではなく、人間は宇宙のあらゆる創造的活動の方向を決定する原理の普遍的エネルギーを受けなければならないチャンネルであることを最初に認識することになるのです。そして、人類の進化のこの時点から、人間は、人間の感覚の盲目的な個性に結びついた主観的で不完全な形態から解放された創造性の様式で、受け取り、指示し、指導することができるように、あらゆる形態の個人の思考から、きっぱりと独立することが可能になるのである。

人間の感覚は本質的に現実を知らない。このため、人間の知性は本質的に感覚によって制限されている。人間の人格が、物事を見る本質によって変化せず、自我が人格の指示する振動数よりも高い振動数に引き上げられない限り、他の次元で追求されている知性、より広い機能、完全性、高い完成度の機能と直接連携することは不可能である。

しかし、人間は近い将来、自分より高い次元で働く知性に、しかし、まだ自分には見えるかもしれない次元で働く知性に、ついに到達する。そして、ひとたびこの可視の力に到達した人間は、その後、振り返ることは不可能である。なぜなら、彼の前にあるすべてのもの、普遍的な知性の無限の創造的可能性は、彼の魂の非常に深く静かな冒険の中でしか認識したことのない創造力の座を、彼の心の中に見出したからである。

しかし、いつの日か、人間の魂は人間にとって現実のものとならなければならない。その力は、人間の意志によって実現可能なものにならなければならない。そして、その無尽蔵の可能性は、人間のエゴによっても認識されなければならない。エゴは、物質の中、あるいはその物質に近い部分において顕現し、無限という最後の印象を人間に与えなければならない。

人間は、何世紀にもわたって、何千年にもわたって、考え得る限りのあらゆる種類の嘘で上から下まで縫われた非常に広大な領域の中で進化してきたのです。人類の運命が意図した嘘、しかし、中途半端な真実の嘘である。そして、明日の人間は、現実にアクセスする力、つまり、全体を見渡し、それを総合的に理解する力を、ついに自分の中に認識しなければならない。

人間の思考は、人間の経験という主観的な感情に直結するエネルギーの中に閉じ込められ、今日、直観のかすかな輝きにさえ取って代わることができなくなってしまった。 この思考は、現実のわずかな核をそれ自身の中に結晶化させる力を失っている。人間の直観はその力を失い、人間の心を貫く力を失ってしまった。だから、彼は今、自分の感覚に翻弄され、自分の知性は自分の限界に翻弄されているのである。

明日の人間は、他の平面や他の惑星で進化している他の存在と、非常に簡単に会話することができるようになり、またそうしなければならなくなるであろう。しかし、この仕事、この進化が実を結び始める前に、これらのコミュニケーション、無限の宇宙における長距離の会話の先駆者となる人間は、自分のものではない精神と自分に属する精神との出会いによって引き起こされる妨害に最初に苦しむことになるであろう。この2つの霊の出会いから、新しい振動が生まれるでしょう。新しい振動は、人間の自我に、知る力、認識する力、普遍の最大の秘密に分け入る力を生み出すでしょう。

人間は、自分の主観的な心のわずかなデザイン、自分の個人的な思考のわずかな熟考が、強力な形の感情エネルギー、強力な形の主観的エネルギーを反映していることに気づくまでは、自分の思考のベールの向こうに巨大な知識の大聖堂があることを理解することは不可能であろう。

それはもはや、人類、つまり明日の人間が振り返る問題ではありません。人類がすでに理解しようとしたことを熟考するのは、もはや問題ではありません。それは、明日を生きる人間が、もう一度、自分の生まれ故郷に、つまり、自分の真の精神に、つまり、もう一度、自分の中にある精神に、自分に刷り込まれた精神にではなく、戻るという問題なのです。

その作業は容易ではなく、負担は完全に個人的なものです。どんな人も、他の人のために球体との接触を経験することはできません。この接触は個人的なものであり、各個人の波動的、エネルギー的な能力に応じて実行されなければならない。

しかし、この接触は、人間がすべてのスーパーマンの上にあることを認識するという基本原則を意味しています。人間は、これまで自分が顕在化させてきたものよりもはるかに偉大な存在なのです。人間は、自分の魂の性質を知り、自分だけの現実のエネルギーに簡単に入り込むことができれば、光の力と強力につながり、進化を方向づける力と強力につながる存在であることを、何よりもよく知っている。

地球はもはや待つことができません。人々は新しい道を開き、まったく新しいことを理解しなければなりません。人々は、もはやエゴの解放願望に属するものではなく、全体の一部であり、現実の一部であり、過去、現在、未来に従って、より高い次元ですでに知られている未来に向かわなければなりません。

人間はもう心配することはありません。自分の存在の可能性を完全に実現し、自分の未来のトータルなビジョンを見るためには、このエネルギーにもっともっと浸透していかなければなりません。人類にとって明日が困難であるのと同様に、人類の別の部分にとって明日は容易であろう。そして、このライフスタイルの違いの絶対条件は、人間の運命と創造の両方に関わる進化の支配的な力と知的で波動的な接触をする人間の個々の能力であろう。

人間は、もはや、盲目で退廃的な社会と滅びゆく文明によって押しつけられた形の支配に従う人生を送ることはできないのです。人間は、もはや、人間、個人、社会のためではなく、個人と社会の両方に役立つ思考条件の奴隷になることはできないのです。人間の維持、地球の維持、生命の維持は、人間の意志や力によって条件付けられるのではなく、進化の支配力、光の力によって条件付けられるのです。 そして、これらの力はますます強力になっていくでしょう。物質、つまり身体は精神から派生したものですから、これらの力に対抗するいかなる制約、いかなる努力も無意味であることがわかります。

知性は人間から生まれるのではないということを理解するのは、人間にとって容易なことではありません。そして、彼の知性の概念は、終末的な概念ではなく、彼のエゴの性質そのもの、彼の心の限界そのもの、エゴと人格のレベルで魂の完全かつ完璧な輝きの中で生きることができないことから生じる過渡的な概念なのです。人間はこの状態とは無関係であり、この状態について宇宙的に言えば責任はないが、この状態は人間によって生きられ、人間によって開発され、歴史の始まりからのその管理は人間の中に反映されている。

もはやインボリューション（下方進化）の理由を合理的に説明する問題ではなく、進化の未来、そして人間の思考の形態を破壊しなければならない振動エネルギーのますます強力な浸透をこの地球上で開始することを実現する問題なのです。つまり、主観的な思考の土台となるものであり、それによって人間の心は最終的に解放され、「霊」という言葉、「見えない」という言葉、「無限」という言葉、「光」という言葉、「神」という言葉、「魂」という言葉が何を意味しているのかを知ることができるようになる。つまり、この地球上で私たちが最初から考えてきた、物質を超えて生存するために不可欠なものすべてである。

人間が目の前にあるものを発見できるのは、もはや哲学的な思考ではなく、その質や色がどうであれ、進化のさまざまな面における精神の動き、創造の根底にある精神の動きを直接知覚することによってなのである。

人間の前には、広大な「*地図」があり*、無限の道があり、自分でも知らない力がある。これまでの人生が彼にとって物質的な経験であったのと同様に、明日の人生は彼にとって感覚を超え、物質を超え、しかし感覚や物質と直接結びついた経験であるだろう。

もし、プリンシパリティが人間に自分の概念の不条理な面を明らかにすることを望まなかったとしたら、それは、いつか自分から遠ざけられていたものを取り戻すために役立つ必要な道具を開発することを可能にするためでした。私たちは今日、人間に要求されるのは心を開くこと以外にないことを知っています。なぜなら、人間の精神と目に見えないものの無限性との接触は、人間の精神と感情の完璧なバランスを必要とするからである。そして、この条件がすべて満たされることで、新しい人間、すなわち、第6の根源的な種族の人間、明日の人間が出現するのです。

時間が人間を条件づけるのと同様に、現実に対する幻想の無力さ、あるいは自分の存在の振動的性質の最終的な実現に気づき始めたとき、時間は人間を脱条件づける役割を果たします。そして、この振動的性質を把握し、振動が自分の中で作用する性質を理解し始めたとき、彼は、自分自身の完全な発展、つまり、目に見えないものとの視覚的で知的な接触へと、不可避的につながる道を歩むことになる。

そして、何千年もの間、高次元の知性体が頭上に置いていた秘密が、その実態や実現が保留されなければならなかったことを理解するのは、この目に見えないものとの接触からである。人間が子供である限り、人類がまだその進化の原始的な段階にある限り、自分にしか役立たない知識を手にすることは問題ではなかった。

人間の知性の幻影を認識する人間は、すでに現実の秘密を突き止め始めている。主観的な思考の幻想に気づき始めた人は、すでに普遍的な思考の無限性を理解し始めたのです。 そして、時間は、その人の進化の可能性を判断するものとなり、また、その人の部分的または全体的な発展の判断者となる。

ある日、人間は、過去に宗教的であれ神秘的であれ、人間から認識を呼び起こした知性体が、実は自分と同じ存在でありながら、はるかに高度で完璧な進化の条件にさらされていることを認識せざるを得なくなるであろう。このような存在の存在、存在、奉仕に関連する感情は、純粋に人間的な感情であり、人間における原始的なものの見方を生じさせるだけであろう。

人間が信じなければならない限り、人間は知ることができない。なぜなら、すべての信念は、その目的が何であれ、価値が何であれ、自分の信じるものに対する責任を人間に生じさせるからである。そして、この責任は、彼とその絆を共有する社会とを結ぶ感情的な絆の中に成り立っているのです。しかし、実際には、広大な知識の回廊の無限性に参加するよう招かれたすべての人間は、自分の中に偉大な孤独を見いだし、自分が知っている側面を持つ現実は、人間同士のつながりを社会的に組織するためにしか役に立たないことを、自分の中で観察しなければならない。しかし、人間の社会が発展し、ますます調和していくにつれて、信念が必要になってきた。

しかし、人間が新しいサイクルに入った今、個性と普遍性が、あらゆる可能な社会組織の形態に勝たなければならなくなった。そして、人間は、自分の中にある炎が、自分を普遍的、宇宙的に結びつけることを理解し、この炎が、その創造物を通しては、物質的なレベルで、生活と存在の調和した条件を生み出し、個人の心理的生活や個人が生まれた社会的伝統とはまったく別の、まったく新しい原則に従って社会を再編成することを可能にすることができます。

つまり、目に見えない力と振動的に接触するようになる明日の人間、個人は、同じ進化の道を歩む人々を認識する方法を知っていると同時に、反対方向に進む人々を認識する方法も知っていると主張します。そして、人間とのバランスを保ちながら、理性や形式、伝統によって知性がまだ盲目になっている人間には見えない平面に、新しいバランスを作り出すことができるようになるのです。

しかし、この知識は今日進めなければなりません。なぜなら、明日には理解できるようになるからです。今日進めなければならないのです なぜなら、この知識が意図されている人たちは、それを感じ、知覚する準備ができており、明日には理解する準備が整っているからです。

人間にとって、もはや解釈の問題ではなく、解釈することなく受け取り、受け取ることができるようになることが重要なのです。その扉は、常にもうひとつの現実を覆い隠し、人間が真に人間であること、そして宇宙の中で天賦の権利を行使することを妨げてきたのです。つまり、人間が自分の平面上に必要な力を生み出し、別の進化のための新しい条件を作り出すことを可能にする権利、地球の人間だけでなく他の惑星の人間とも、生きている人間だけでなく高い次元の不死の知性ともテレパシーでコミュニケーションする権利である。

つまり、人間は失ったものを取り戻さなければならない。それは、自分のせいではなく、人間のドラマを見守り、そのグランドデザイン通りに進化させる知性が、すでに宇宙に存在していたからである。

人間が傷つき、苦しみ、抑えつけられたとしても、同じ人間がもはや無知の絞首台に固定されることはなく、過去に文明の発展に不可欠な形式への感情的忠誠心を人間に植え付けようとした同じ力によって解放されるときが来るのです。

今日、人間が具体的に達成できないことを、人間に告知するのは難しいことです。しかし、それでもなお、彼が自分の人生観の限界を克服し、形の障害を克服し、感情の罠を克服するのを少しずつ助け、いつの日かついに宇宙の壁を突破し、精神の広大な領域を征服できるように、彼の中に十分な力を生み出すことが必要である。

なぜなら、彼が生まれたのは精神からであり、彼が戻らなければならないのは精神にだからです。しかし、今度は肉体に栄光を与え、物質に対する意志を強力にした状態で。